

# 【带状疱疹ワクチンについて】

带状疱疹ワクチンは2種類あります。

それぞれ接種の回数、方法、予防効果等は異なりますが、いずれも带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

以下を参考にしてください。

種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回 ※2回目は1回目の接種から原則2か月後、遅くとも6か月後までに接種 公費で2回接種するには、令和9年1月末までに1回目を接種してください
接種方法	皮下注射	筋肉内注射
接種できない方	病気や治療によって免疫が低下している方は接種出来ません	免疫の状態に関わらず接種可能
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、 大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種	筋肉内に接種をするため、 血小板減少症や凝固障害を有する方、 抗凝固療法を実施されている方は注意が必要
有効性 (発症予防効果) ※1	65～69歳:36% 70～74歳:35% 75～79歳:32% 80～84歳:31% 85～89歳:32%	60～69歳:97.4% 70～79歳:90.0% 80歳以上:89.1%
予防効果※1	約5～7年	10年以上
同時接種	医師が特に必要と認めた場合には、 他のワクチンと同時に接種することが可能	医師が特に必要と認めた場合には、 他のワクチンと同時に接種することが可能
他のワクチンとの 接種間隔	他の生ワクチン(注射剤)を接種した場合、 通常27日以上間隔をあけて接種する	規定なし
主な副反応の 発現割合 ※2	70%以上:－ 30%以上:注射部位の発赤 10%以上:注射部位の掻痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結 1%以上:発疹、倦怠感	70%以上:注射部位の疼痛 30%以上:注射部位の発赤、筋肉痛、疲労 10%以上:注射部位の腫れ、胃腸症状、悪寒、発熱 1%以上:かゆみ、倦怠感、全身疼痛
その他	●带状疱疹に罹ったことのある方も定期接種の対象になります。接種のタイミングは医師に確認をしてください。 ●定期接種の対象者が既に一部の接種を任意接種として行った場合は、残りの接種を定期接種として接種することができます。 ●接種前に発熱を呈している方、重篤な急性疾患に罹っている方、それぞれの予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方等はいずれのワクチンも接種出来ません。 また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、带状疱疹ワクチン(生ワクチン、組換えワクチン)の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。医師に確認してください。	

※1 第65回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会(2024(令和6)年12月18日)

※2 厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 予防接種課からの文書より引用